

事業名 一級河川^{かのがわ}狩野川水系^{ももざわがわ}桃沢川
地方特定河川等環境整備事業
[住民が創造する公園整備]

受賞機関 静岡県沼津土木事務所
事業実施期間 平成7年4月1日～平成13年3月31日
事業費 270百万円

事業等の特徴

砂防事業の実施に併せて、周辺の森林の林相の改良まで視野に入れ、自然回復を図っている点は特筆すべき取り組みと考える。

さらに、その森づくり・溪流づくりやその後の維持管理に多くの住民が参加し大きな成果をあげている。事業の概要と利用者等の評価

計画地のある桃沢川は静岡県東部に位置し、東北日本と西南日本の境界となる大構造帯（フォッサマグナ）の周辺位置するため、独自の植生群が分布している。

しかし、愛鷹山の中腹に位置する計画地はスギ・ヒノキの人工林が優先しているため、自然度が低く、四季の変化に乏しい。その林内は日中でも薄暗く、湿気を帯びているので、植生環境は単一的である。そのため、本来ある豊かな植生・生態環境からかけ離れたものとなっている。

環境整備事業はスギ・ヒノキの人工林から潜在的な自然林に林相を改良し、植生を多様化することで、季節感を演出し、生態系の豊かな森の創造を導こうとするものである。

計画地の自然環境を本来あるべき姿に戻し、かつ、人が自然を感じることのできる公園計画・整備を行っている。事業を通じて、植生・生態環境の改善を念頭に置き、公園の計画から整備まで地元住民とワークショップを行った。

植生改善については人工林から潜在的な自然林に移行することを前提とし、植生調査、間伐、植樹計画について地元住民の意見をとりまとめ、整備に反映させた。

間伐は強間伐による植生の急激な環境変化をさけ、年次的な計画を立て実施した。植樹は生息する区域を水際、丘陵地、傾斜地の3タイプに分け、かつ、修景的な樹種（イロハモミジ、ケヤキ、ヤマザクラ



整備後（ビオトープ空間）

等）や小動物・鳥類を誘引する実のある樹種（コナラ、クヌギ）を中心に林相改良を図った。特にイロハモミジは寒暖の差が激しい気候のため、一段と鮮やかに映え、来園者に好評を得ている。

景観変化にあわせ、生物への配慮を行った。それは、桃沢川本流より水を引き込み、水生生物や昆虫・小動物・鳥類を誘引する一種のビオトープ的な空間を創造した。これにより、カワセミ等の鳥類が飛来するようになり、トンボ・カエルなども数を増やし、生態への変化が顕著に見受けられる。

ワークショップを繰り返していくうちに、公園に対する愛着がわき、今では苗木の植樹や草刈り、間伐材を利用した園路整備（チップの敷均し）を地元住民が主体となり、自主的に行っている。また、ワークショップを通し、互いに自然環境・景観に対する意識改革が伺える。

審査委員会委員の意見等

- ・人工林から潜在的な自然林への移行を配慮していることと計画（年次の）的移行（景観）生態系の変化も評価したい。
- ・間伐材などの有効利用、森づくりや維持管理への参加がよい。
- ・維持管理に多くの参加者を組み入れていくことが今後いずれの方策にも必須である。自然回復と周辺の林相改良への配慮等が評価できる。
- ・スギ、ヒノキの人工林から潜在的な自然林に林相を改良し植生を多様化することで、季節感を演出し生態系の豊かな森に戻そうという計画を、地元住民とワークショップを重ねて実施したことは評価できる。しかし、写真で着手前と完成後の事業効果の把握がよくわからないところが残念である。